

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

日本語日本文学科

所定の単位を修得し、ライフ・デザイン力と学び続ける強固な意志を身に付けることをめざします。また、次の内容を満たすことも求めます。

- ①科の教育理念「自主独行」に従い、自らの目的に応じた科目選択・単位取得ができていること。
- ②日本語や日本文学、日本文化の基礎がどれほど身につけられたかは卒業研究で判断される。この研究を作成する過程で、情報を収集する力、情報を考察する力、論理を構成する力、文章をまとめ、発表する力を身につけていること。
- ③授業や行事を通じて、批判する力、協働する力、企画する力などを育成していること。

英語英文科

所定以上の単位を取得した学生に、現代社会の諸問題に関する知識とそれらに対する幅広く柔軟な思考力を併せ持ち、英語の運用能力と異文化理解能力を活かし、社会に貢献できる人材であることを認定し、短期大学士（英語英文学）の学位を授与します。

保育科

豊かな人間性を育むとともに保育者としての専門的知識や技能を修得し、社会の一員として行動できまた地域社会に貢献できる知性と教養を修得できた者に学位を授与します。

- ①柔軟性があり、感性が豊かであること。
- ②保育に情熱を抱き、子ども観、保育観がもてること。
- ③知識と知恵を併せもつこと。

音楽科

音楽科では、学生が卒業後に活動する領域として次のような分野を想定しています。

- ①演奏家や、趣味としての演奏活動など、楽器等の演奏技術を活かした分野。
- ②中学校教諭や音楽教室講師など、音楽の専門的知識を活かした教育的な分野。
- ③音楽療法士など、音楽の専門的知識を活かした福祉的な分野。
- ④楽器や楽譜の販売など、音楽の専門的知識を活かした一般的な分野。
- ⑤計画性や継続性など、音楽を学ぶ上で獲得した特性を活かした一般的な分野。

このような分野で自立した活動が出来ることを目指し、音楽科が求める学習の達成目標は次のとおりです。

- ①専攻実技の演奏技術の向上はもとより、表現や練習の方法などを的確に判断し実行できる能力を習得していること。
- ②音楽の専門的知識を修得していること。
- ③それぞれの資格が必要とされる現場に対応できる技能と知識を習得していること。